

淀川登山口

淀川登山道入口は、屋久島奥岳への最もポピュラーなルートのスタート地点である。奥岳のうち 10 峰が標高 1,800 メートルを超え、その中には九州地方で最も高い 8 つの山がある。最も高いのは宮之浦岳で標高 1,936 メートルになる。

この登山口から宮之浦岳までのハイキングは 8 キロメートルの距離があり、片道約 5 時間の上級者向けルートである。日帰りの場合は、午前 7 時までに出発し、午後 1 時までには帰路につく必要がある。または、登山道沿いの山小屋で泊まる選択肢もある。

トレイル沿いの見どころ

植生：淀川エリアは、島固有の石楠花の一種であるヤクシマシャクナゲの群生地として有名である。

ヤクシマシャクナゲの花はピンク色で咲き、散る前に白くなる。開花時期は 5 月下旬から 6 月上旬である。10 月中旬から 11 月上旬にかけては、ナナカマドやヤクシマオナガカエデがとりわけ色鮮やかになる。

淀川小屋と豆腐岩

淀川小屋は、登山口から約 1.5 キロ、50 分ほどのところにある。この小屋とその先の登山道はすべて屋久島世界自然遺産の区域内にある。花崗岩の岩が豆腐を切ったような形をしていることからそ

の名がついた豆腐岩を眺めてみよう。豆腐岩は高盤山（標高 1,711m、ハイカーは立ち入り禁止）の頂上にある。

花之江河湿原

登山口から約 4 キロ(約 2 時間 40 分)のところに、この湿原はある。標高 1,640m に位置するこの湿原は高山植物や強風によって樹皮が剥がれてしまった樹齢 1,000 年以上の屋久杉の生息域である。花之江河湿原には点在する小さな祠は、山に参詣する住民にとってこの湿原を重要な岐路としている。集落ごとに巡礼先は異なり、主要な山々の頂上にはより多くの祠がある。

黒味岳

多くの日帰りハイカーは、宮之浦岳までハイキングするよりもむしろ、黒味分かれで分岐してから黒味岳（1,831m）にまで至る、より短いサイドルートを選ぶ。このハイキングコースは全長 5.2km で片道約 3 時間 45 分ほどかかる。黒味岳山頂からは屋久島の他の峰々や、天候がよければ鹿児島本土まで見渡せる。黒味岳は、数多くの大きな花崗岩の露頭が特徴的である。

宮之浦岳

宮之浦岳を目指すハイカーは、投石岳（1,830 m）、安房岳（1,847 m）、翁岳（1,860 m）の斜面を縦走する登山道を通して栗生岳（1,867 m）へと至る。栗生岳と黒味岳は屋久

島の「三岳」の 3 位タイであるとしばしば言われる。1 位と 2 位はそれぞれ宮之浦岳と永田岳（1,886m）である。3 位には黒味岳が入ることが一般的だが、実際には栗尾岳の方が高い。

さらに進む

宮之浦岳からは、永田岳方面、縄文杉・ウィルソン株方面へとコースが続いている。これらのルートを行こうとするハイカーは、山小屋で一泊する計画を立てるように。

注意事項

ヤクシマザルやヤクシカ、あるいは様々な種類の両生類や昆虫類、鳥類がこのエリアには生息している。国立公園内の動植物保護のため、ハイカーは常にトレイル内を歩くことや動物に餌を与えないこと、水源を汚さないこと、苔を踏みつけないこと、またはゴミを残さないことを要求される。許可されていない場所でのキャンプ、森林内での火起こし、生き物を捕まえたり傷つけたりすることは、すべて法律で禁止されている。また、道中にある小さな祠にも敬意を払うように。

島の天候状況は急変することがあり。冬には 1～2 メートルの雪が積むこともある。トレイル上の落枝や落石にも注意。携帯電話はほとんど通じないが、エリアによっては電波が入るところもあるので、ハイカーは緊急時に備えて電話を携帯しておくとい。淀川小屋には汲み取り式トイレがある。花之江河湿原と翁岳付近には携帯トイレ用ブースがある。緊急時のために携帯トイレパックを携帯し、登山前には登山道入口にあるこの施設を利用するように。